HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第二部　部局史.　総合博物館
Citation	北大百二十五年史, 通説編, 1243-1247
Issue Date	2003-12-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/28210
Type	departmental bulletin paper
File Information	hokudai125yr_tsuusetsu_1243.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

総合博物館

北海道大学における膨大な学術標本と各種資試料の収集・整理・活用を目的とした然るべき施設を設置し、その運営を検討することが一九六六（昭和四一）年から開始された。しかしながら、キャンパス内全体の再整備計画等の諸事情からその実現が先送りされていた。その後、増加する一方の貴重な学術標本の有効活用の要請が学内から高まり、一方ではそれら学術標本の紹介や利用希望が増加してきた背景も手伝って、総合博物館設置の必要性が高まってきた。

一九八九（平成元）年に北海道大学学術資料館（仮称）設置検討委員会が設置され、そこで施設計画資料館専門委員会により「学術資料館に関する答申書」（一九八八年十二月作成）が説明され、これに盛り込まれた「学術資料館（建物）として全学的同意のもとに理学部本館を移転・改修して使用すること」が再確認された。

その後、大学院重点化計画が先行した事情により、一九九五（平成七）年まで学術資料館（仮称）設置検討委員会は開催されなかった。理学部では、一九九〇（平成二）年五月末を締め切りとして「大学院の改革整備のあり方に関する調査」結果を報告することが求められた。これ以降、大学全体の基本的視点がグラジュエイト・リサーチ・ユニバーシティ型の大学を実現することに向けられた。この大学院重点化の検討過程で、教養部を改組して学部一貫の基礎教育重視型の学部教育システムの検討がされることとなった。一九九五（平成七）年度以降は、大学院重点化構想が全学的に次々と実現して行くことになった。

一九九五（平成七）年六月に、「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について」と称する「中間報告」が学術審議会学術情報資料分科会、学術資料部会から提出された。同年北海道大学総長に就任した丹保憲仁工学部教授は、二一世紀の第一年目（二〇〇一年）に創基一二五周年を迎える時期に合わせて「ユニバーシティ・ミュージアム（北海道大学総合博物館）」を設立することを目標として計画を発足させ、学術標本と資料の調査・保存のための準備を始めるとした。また、総合博物館設立に向けた先行企画として、「北海道大学学術資料展示（第Ⅰ期）―地球惑

星科学分野―」を一般公開した（一九九八年）。

北海道大学の敷地は、サケやマスが遡上した清冽なサクシュコトニ川のほとりに先史時代の集落が存在した歴史層の上部にある。歴史の殿堂としてのユニバーシティ・ミュージアム（北海道大学総合博物館）を意義のある一二五周年までに設立することは、開学以来の全学的な願望でもあった。

国内的には、前述の学術会議の答申を受けて、東京大学総合研究博物館（一九九六年）、京都大学総合博物館（一九九七年）、東北大学総合学術博物館（一九九八年）が相次いで設立され、一九九九（平成一一）年四月に念願の北海道大学総合博物館の設置が実現に至った（写真1）。総合博物館の構成は、運営委員会の下に、専門委員会および研究部、資料部、事務部が配置され、事務部については責任部局として理学部が担当することになった。初代館長には、小泉格教授（理学研究科地球惑星科学専攻、併任）が就任し、研究部には、（a）資料基礎研究系（教授、助教授、助手各一名）、（b）資料開発研究系（教授、助教授各一名）、（c）博物館情報メディア研究系（助教授、助手各一名）計七名（学内流用五名、純増二名）からなる専任教官が配置された。また、事務部は専任の事務官（二名）、研究支援・展示説明員（二名）等を併せて七名からなり、資料部は館外の相当数の適任者

写真１　改修後総合博物館建物として活用される理学部本館
（1999年撮影）

が適宜推薦・選考されてその任にあたる（兼任等）ことになった。

本総合博物館設立後の主な活動内容としては、総合博物館主催或いは共催などによる各種シンポジウムや土曜市民セミナーの開催、博物館ニュース誌発刊、海外（特に北方圏）の各博物館との協定書締結、博物館標本のデータベース作成、国内外における博物館教官独自の調査・標本収集活動、創基一二五周年企画展示およびその他の特別企画展示の準備作業のほか、全学教育科目講義の担当や学芸員実習受け入れなどの博物館主導の教育活動が挙げられる。

総合博物館における今後の活動は、（一）学術標本の調査、収集、整理、分析、保存、（二）学術標本に関する情報提供、（三）学術標本の公開・展示、研究成果の公表、（四）独自の実証的教育・研究、（五）地域社会への貢献を意識して展開されることになる。また、総合博物館は、（一）大学改革の推進（インターファカルティーの核、総合的研究・教育の企画・推進・実施の場、実践的な体験教育の実施の場）、（二）先導的・先端的学術研究の基盤整備（新たな研究体制の提案と整備の場、国際学術情報交流センター）、（三）自然・文化の保存・伝承（新たな「博物館学」の確立・構築、北方圏プロジェクトの重要性指摘と企画・立案）、（四）開かれた大学の実現（リフレッシュ教育・生涯学習の推進、体験学習センター）を目標に、エコ・ミュージアムを目指している。

（執筆　小泉格・松枝大治）

年表

一九六六（昭41）
6・　施設計画委員会に「資料計画専門委員会」設置

一九七二（昭47）
4・　「北海道大学資料館設置計画答申書」で資料館構想を提示

5・　施設計画委員会に「資料館専門委員会」設置

一九八八（昭63）
12・　「学術資料館設置に関する答申書」を学長に提出

一九八九（昭64、平1）
3・　部局長会議で同答申書を検討・承認し、基本方針を検討する委員会の設置を決定

5・　「北海道大学学術資料館（仮称）設置検討委員会」設置

7・　第一回学術資料館（仮称）設置検討委員会開催（委員長に理学部長を選出、専門委員会の設置）

一九九六（平8）
10・　第二回学術資料館（仮称）設置検討委員会を開催
専門委員会の名称（ユニバーシティ・ミュージアム）決定、目的・委員構成の了承

一九九七（平9）
3・　第三回学術資料館（仮称）設置検討委員会を開催
「北海道大学総合博物館（仮称）設置計画書（案）」を了承

6・　第四回学術資料館（仮称）設置検討委員会を開催
「北海道大学総合博物館概算要求資料（案）」と一九九八年度概算要求を了承

10・　第五回学術資料館（仮称）設置検討委員会を開催
本学創基一二五周年（二〇〇一年）記念事業として、本学総合博物館での特別展示実施を了承

一九九八（平10）
11・24　先行企画として「北海道大学学術資料展示（第Ⅰ期）―地球惑星科学分野―」を一般公開

一九九九（平11）
4・1　概算要求により「北海道大学総合博物館」設置

4・　理学部本館南棟の第一期改修工事開始
創基一二五周年企画展示専門委員会発足

二〇〇〇（平12）
3・　第一期改修工事終了

二〇〇一（平13）
9・27　北海道大学創基一二五周年記念企画展示一般公開